「個浴での入浴介助について」

２年７組　６番　伊藤　源太
２１番　　佐藤　彩
２３番　鈴木　晶教
２７番　　谷　陽帆
実習施設：特別養護老人ホーム　明尽苑

＜テーマ設定の理由＞

１１月の特別養護老人ホームでの１５日間での実習で、個浴での入浴介助を見学また介助を多く体験した。私達は見学と体験を通して、個浴で入っていただくための介助の工夫や利点について学んだ。
そこで、個浴で入浴介助をするための工夫点や利点を発表する。

介護場面の実際

・入浴の順番
個浴の場合にどのような工夫があるかを入浴の順番とともに説明する。

利用者の状況
・女性
・全介助
・拘縮あり
・職員とのコミュニケーションが図れない
・車いす使用
・入浴の際は二人介助
・座位が保てない

入浴の手順
①インフォームドコンセントを行う。
②利用者の衣服を脱がす。
③服を脱がしたらタオルをかけてプライバシーの配慮。
④車いすからシャワーチェアーに乗り換えてから浴室に移動。
⑤介護者が事前にお湯の温度を確認してから利用者の足にかけ、温度の確認をしてもらう（表情から読み取る）
⑥頭→体の順に洗い、その人の肌の状態に合わせて洗う際の力加減を変える。
⑦浴槽に入れるときは一人が脇に腕を通して抱え、もう一人は足を持ち浴槽に入れる。

⑧利用者が浴槽で座位が保てるように介護者が抱えたまま入浴。
⑨肌が赤くなったら上がる。（その日の体調によって入浴時間を変える。）
⑩上がる際はいれる時と同じように行いシャワーチェアーに移乗してもらう。
⑪上がり湯をかけて、脱衣所へ移動。
※他にも、リクライニングチェアーを使って入浴している人や、自立して入浴している人もいました。

入浴の工夫点

機械浴を使わず、どの利用者でも個浴で入浴を行う。
ひのき風呂を使用し、昔ながらの入浴の雰囲気で入浴することができる。
（ひのき風呂にはフィトンチッドやヒノキチオールという独自の香りがあり、
その香りは人を癒す効果があるとされている。）
それぞれの利用者の介護度と特徴に合った介護をすることで利用者の個別性に
合わせた介護ができる。
→家と同じ環境で入浴ができる。

考察

このように工夫をすることで、利用者はできることが増えると、生きる意欲を感じながら気持ちよく入浴できるのだと考える。また要介護状態に関わらず、どの利用者も個浴で入浴していただくことで、個浴なら、プライバシーの保護もでき、利用者に羞恥心やストレスを感じさせない介護が提供でき、家と同じ環境で入浴をすることができると考える。また、浴槽が檜で作られているので、利用者もよりリラックスして、入浴ができるのではないかと考える。このことから、利用者の「自分のことは自分でしたい」「自分らしいやり方」を尊重でき、利用者の尊厳を支えるということにもつながると考える。さらに個浴では、機械浴のような統一性がある介護ではなく、一人ひとりの観察ができるので、潜在能力を見出すことができ、その人に合った介助を提供でき、そこからADLの向上につながると考える。

参考文献　川井太加子/生活支援技術Ⅰ基本編/出版社：株式会社/メヂカルフレンド社/
平成２４年2月１０日/P201
http://phdi47763.binauralbeatshypnosis.info/

個浴での入浴介助について

実習施設:特別養護老人ホーム明尽苑

6番伊藤　源太
21番佐藤　　彩
23番鈴木　晶敦
27番谷　　陽帆

問題設定の理由

- 私たちは実習で個浴での入浴介助を多く体験させていただいた。
- そのなかで個浴で入っていただくための介助の**工夫**や**利点**について学んだ。
- そこで、個浴に利用者さんをいれるための工夫点や利点を発表する。

介護場面の実際

女性
全介助
座位保てない
拘縮あり
入浴の際は二人介助
車いす使用
職員とのコミュニケーションが図れない

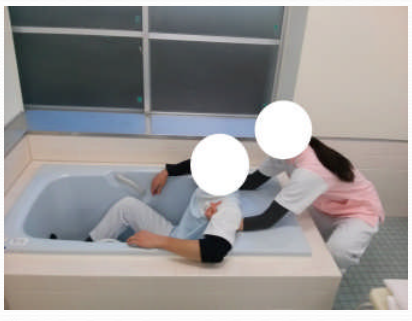
入浴の手順

バスタオルをかけてプライバシーの保護を行う。

車いすからシャワーチェアに乗り換える。

浴槽に入れる際は、一人が脇に腕を通して、もう一人はひざを持ち浴槽に入れる。

座位が保てないので支える。



利用者の状態に合わせて介護用具を使用する。

考察

- 一人ひとりプライバシーの保護ができる。
- 浴槽がリラックス効果があるとされているフィドンチッドなどが含まれているひのき風呂である。
- 要介護状態に関わらず、どの利用者も個浴で入浴する。

これにより、ストレスなどを感じさせることがなく、リラックスして入浴ができる。

- 機械浴のような統一性がある介護ではなく、個浴では、一人ひとりの観察ができる。
- 今までの慣れ親しんできた環境で入浴することで、「自分のことは自分でしたい」「自分らしいやり方」を尊重することができる。

このことから、潜在能力を見出すことができADLの向上につながる。